

東海大学で本部長が講義



自衛隊神奈川地方協力本部長の平井克英1等海佐は、7月4日(火)、昨年に引き続き東海大学政治経済学部政治学科 小川裕子教授が受け持つ「グローバルガバナンス論」の授業にゲストスピーカーとして招かれ、湘南キャンパス内の教室で「現場から見た国際貢献」というテーマで講義を行った。「グローバルガバナンス論」とは、テロや暴力的過激主義が拡大する今日の世界をどのように統治していくのかを探求する学問であり、地球規模の課題に挑んでいる実態について、実務的観点から学生に理解させることを目的に行われたものである。

100分に及ぶ講義では、防衛白書を基調としつつ、典型的な海洋国家である日本にとって海上防衛力がいかに重要であるか、そして海上自衛隊の海外任務とはどのようなものかについて、自身の経験を交えて説明した。なかでも10年以上続いている海賊対処行動については、国際社会が結束して取り組んだことで海賊行為を激減でき、国際貢献における軍事活動の有用性を示すことができたことを紹介し、聴講した政治学科1、2年生の約70名の学生は熱心に耳を傾けていた。

学生からは、海賊が実在していること、そして海賊対処のための活動が国際的に展開され、海上自衛隊も主要な役割を担っていることを知り驚くとともに、「海洋国家日本にとって海の安全保障を実現することがいかに重要か分かった」「海上自衛隊の活動が国際貢献につながると知り、日本人として誇らしく感じた」などの感想が寄せられた。

神奈川地本では、「学校での講義など、あらゆる機会を積極的に活用し、自衛隊の活動についての理解を深めて頂くよう努めていく」としている。

高等工科学校オープンスクール参加

川崎出張所では、オープンスクールへの参加等を通じ、将来の夢の実現に向けた支援を行い、優秀な自衛官が誕生する事を心待ちにしている。



自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所(所長 宮城英明2等陸尉)は、令和5年7月29日(土)、30日(日)陸上自衛隊高等工科学校(横須賀市)にて開催された、「高等工科学校オープンスクール」に同校の受験を検討しているご家族と参加した。

当日は、講堂において学校長の挨拶の後、全体説明や卒業後の進路等の説明に続いて、生徒の1日の行動の動画放映が行われ、整然としたパレード風景や、衣食住の生活環境、クラブ活動の様子を、参加者は身を乗り出して視聴していた。

講堂での説明後は、整っている生活環境や、授業の様子を見学し、参加者が一緒に参加したご家族と自分が入校した姿を想像しながら笑顔で話す様子も見受けられ、「見て良かったです。絶対受けます!」と話す高等工科学校生徒合格を目指している参加者の姿が印象的だった。



自衛隊員になったつもりで体験搭乗



自衛隊神奈川地方協力本部溝の口募集案内所(所長 辻2等陸尉)は、令和5年7月29日(土)に川崎市内において、高機動車の体験搭乗を実施した。

一般公募により溝の口募集案内所に集まった10名の参加者たちは、猛暑の中、自衛隊車両の概要説明、車両展示、体験搭乗及び広報官との懇談など有意義な時間を過ごした。

体験搭乗では、普段見ることはあっても乗る機会のない高機動車で川崎市内を約30分ほど走行し、参加者たちがワクワクドキドキな思いで、心から楽しんでる様子が見られた。

普段隊員が乗る座席に座り、自衛隊員になったかのような参加者たちは、「思ったよりも乗り心地が良かった」「車両が大きいわりに、小回りが利くのに驚いた」と話していた。

また体験搭乗終了後、広報官との懇談が和やかな雰囲気の中で行われ、参加者たちからの自衛隊員の私生活や仕事内容に関する質問に対し、広報官が親身にかつ的確に答え、参加者たちとの親睦も深まった。

溝の口募集案内所は「今後も、自衛隊に対する興味や理解の促進に努め、自衛隊を身近に感じてもらうよう広報イベントを企画していきたい」としている。